ずいそう

居合との出会い

小　松　修　夫

居合を**始め**たのはまさに“40の手習い”でした。きっかけは転勤先の先輩が居合をしているとの事。実は私も高校では剣道部「剣道は続けていないと出来ないけれど，激しくなさそうな居合ならば興味はありますねぇー」と。模造刀を手に同好の士となり，振り返れば20数年が過ぎました。

居合道の**極致**とするところは，「修練により常に鞘(さや)の中に勝を含み，抜かずして相手を制する」ことです。我が流派では，座した相手に真横に抜き付け，刀を返して真上から切り下ろす“十文字の居合”を基本に学んでいます。

居合の**技**(わざ)は，その場での環境に合わせて運刀するようにできています。例えば，狭い廊下では刀を振り回すことは無理なので真上からの切りや突きで対処する技や，天井が低い場合，襖の両側に潜んでいる場合，前後左右を囲まれた場合等いろいろな想定での技を習得します。

流派は，我が無双直伝英信流(むそうじきでんえいしんりゅう)や最も愛好家の多い夢想神伝流(むそうしんでんりゅう)が双璧で，田宮流，伯耆流(ほうき)，新陰流(しんかげ)等々全国各地に伝わるたくさんの流派があります。

「土佐のお留め流」といわれる無双直伝英信流は，明治の終頃までは門外不出（県外不出）として発展してきたもので，高知人の私もなにかの縁を感じます。

大会は全国各地で開催され，試合方法は剣道と同じく二人が対戦します。本物の刀を抜きますので相対するわけにはいきません。三人の審判の前で5本の技を抜き，気合・刃筋・技の正確さ・気品等で勝敗が決まります。

昇段は，初段に始まり五段までは各県での審査で，六段以上は全国審査となります。六～七段審査は合格率10％に満たないことが多い難関です。

刀は入門時は模造刀ですが，三～四段位になると真剣が欲しくなります。六段審査では真剣が義務づけられていることもあり，五段では全員が本物の刀で緊張感のある練習をこなしています。気を抜く等していると回りも危ないですが，何より我が身を切ってしまいます。殆どの方が大なり小なり経験済みです。かく云う私も，鞘離れ（抜き放つ瞬間）で数回ソヨリと切った感触を味わいました。

居合は剣道の“**動**”に比べ，“**静**”といえますが静の中に動あり。気を集中しての抜き付け･切り下ろし･残心と，常に相手を圧しての気合いと集中力が必要となります。冬でもジットリ，夏ならボタボタの汗が出ます。快い心身の疲労は練習後の一杯を格別な美味しさにしてくれます。

生涯学習としての居合の良さは，相手が居なくても出来る武道なのでマイペースで出来る事です。例えば，道場で若い方と一緒に練習しても自分の体力に合わせ疲れたら小休止。でも，見取り稽古は出来ています。家でもひとりで練習できます。健康とボケ防止にも役立つとも思え，今更ながら生涯付き合える良いものにめぐり会えたと喜んでいます。

団塊世代の皆さん，60の手習いをしてみませんか。

――こまつ　しゅうお　東洋建設㈱　四国支店　技術担当部長――